

安全・安心

消防局指揮隊の活動内容と効果

活動内容と効果

問 平成20年10月1日、消防局は指揮隊を発足させたが、活動内容と効果は。

答 指揮隊は情報収集・安全管理・周辺広報をはじめ、消防活動の円滑化を図っている。

このため現場の消防職・団員からは安心して活動できると好評で、地域住民や報道機



指揮隊 訓練を備えに万が一

関に対する現場広報は周辺住民の不安解消に役立っている。

また安全・安心ネットワーク推進事業の一環として、赤色回転灯を点灯しての学童通学路等の巡回や防災コーデイネーター養成講座の講師に携わるなど地域の防火・防災・防犯意識の高揚を図っている。

特別高度救助隊創設へ

問 政令市移行後、「特別高度救助隊」の発足を目指すとのことだが、具体的にはどのような任務を行うのか。

答 特別高度救助隊の創設にあたっては東京消防庁のハイパースレスキューを目標に研さんを積みみたい。多種多様な災害現場での生存者確認のため、赤外線、電磁波を使用した装備や水中探索の装備も導入する予定だ。また、がれきの除去



新型インフルエンザ対策

問 新型インフルエンザが大流行した場合、市民病院での対応はどうなるのか。

答 県は新型インフルエンザ協力医療機関として岡山市立市民病院の感染症病床のほか、

が可能な工作車、有毒ガス等に対応する特殊災害対応車を配備し、地震・台風・崩落事故・列車事故など広範囲にわたって活動させたい。

教育

食農教育のさらなる推進を

問 子どもの時から「農」に親しみ、「食」を正しく理解する食農教育をどのように推進するのか。

答 平成20年度に八十六の小中学校・幼稚園・保育園において、各種農作物の植え付けから収穫までの農業体験を実施している。21年度には、農業体験に加え、収穫したものを使った調理、試食会を

岡山大学病院、倉敷中央病院、津山中央病院、国立病院機構岡山医療センターを指定し、県内に患者が発生した初期段階で入院の必要な患者を受け入れると同時に、専用の発熱外来も実施する予定だ。

患者が増加した場合の体制は今後県が行動計画で明らかにしていく予定だが、市民病院では、まずは陰圧設備のある別館四階に受け入れ、その後は段階的に対応したい。



施するなど、関係局と連携し、事業のさらなる推進を検討したい。

市民協働による学校教育再生への取り組み

問 地域の力を結集し、学校教育再生の地方モデルに取り組んではどうか。

答 本市では家庭、学校園、地域社会の市民協働による、自立する子どもの育成を推進している。平成14年度から地域の教育力を学校園へ導入す

小中学生の携帯電話

問 小中学生の携帯電話の所有・使用について、学校現場での対応は。

答 携帯電話の危険性について子どもたちに指導し、教職員の意識を高め、保護者に正しい知識を伝える必要がある。平成20年6月にプロジェクトチームを立ち上げ、携帯電話の危険性やトラブル防止策について指導・啓発のための資料を作成し、それを使用した授業もできるようにした。今後とも啓発を進め、教育委員会・教職員・保護者間で携帯電話への対応について共通理解を図り、徹底させる取り組みを進めたい。

る学校支援ボランティア制度を運用し、17年度からは地域協働学校の指定をはじめ、地域住民が学校園運営に参画する取り組みを進めている。本市ならではの取り組みとして、例えば福浜中学校では希望する子どもたちが参加できる放課後学習支援などを行っている。今後も市民協働の理念のもとに、何ができるか考えていきたい。